

## 海域モニタリング行動計画

平成 23 年 3 月 22 日  
文部科学省

### 1. 海域モニタリング計画の目的

福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出状況について確認するため、海上のモニタリングを実施する。

### 2. 海域モニタリング行動計画

施設沿岸における空間線量率の測定及び海水の採取を（独）海洋研究開発機構の調査船により実施。採取した海水については、持ち帰り、（独）日本原子力研究開発機構に送付し、分析を行う。

（行動計画）

○測定場所：従来、実施していた海洋環境放射能総合評価事業と同様の海域で海水を採取。沿岸約 30km の水域（空間線量率の測定を実施し、乗員の安全を確保できる距離とする。）。約 10km ごとに海水の採取を 8 カ所で行い、過去の調査との比較を行う。

### 3. モニタリングの日程

平成 23 年 3 月 22 日 調査船出航

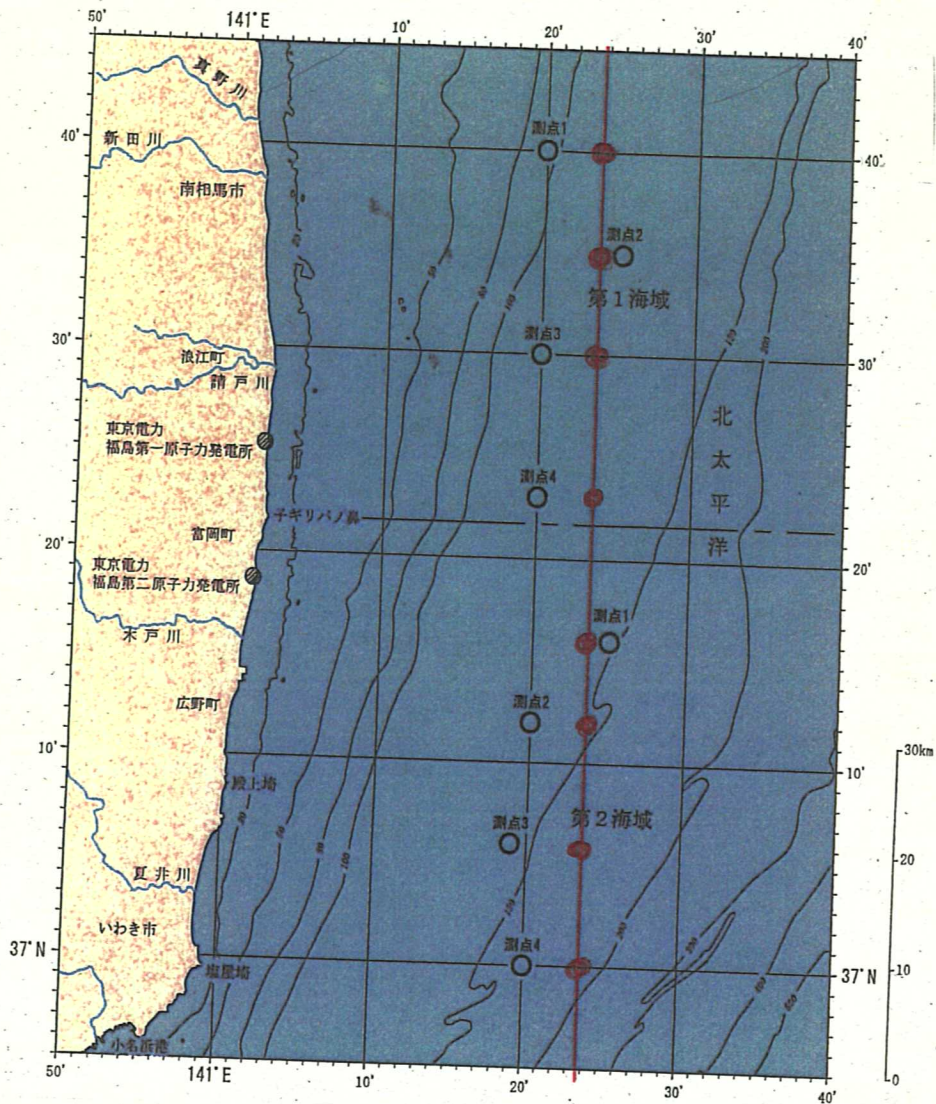
平成 23 年 3 月 23 日 海水採取

測定に要する時間は、濃度等により異なるが、3 月 24 日頃結果を  
発表予定。

### 4. モニタリング項目

- （1）海水中の放射能濃度
- （2）海上の空間線量率
- （3）海上の塵中の放射能濃度

(参考)



○ 従来の海洋環境放射能総合評価事業における海水の採取点

● 今回の海域モニタリングにおける海水の採取点



HAKUHOIMARU

白鳳丸

世界の海を舞台に研究航海

はくほうまる

# 学術研究船「白鳳丸」

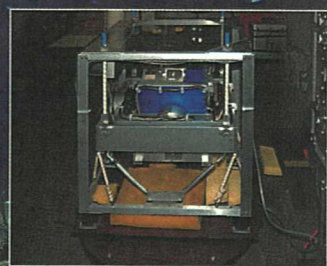
学術研究船「白鳳丸」は総トン数3991トン、全長100mの大型研究船です。日本の近海はもちろん、太平洋、インド洋など世界中の海におもむき、調査研究を行っています。振動をおさえたエンジンや雑音の少ないスクリューなど船体のいたるところで、海洋観測を行うのに邪魔にならないよう工夫がされています。これらの、研究をしやすい環境をつくることで、さまざまな海洋研究の分野に対応することができる船になっています。



## さまざまな研究に対応する

「白鳳丸」にはたくさんの観測機器や解析装置が搭載されていて、さまざまな分野の研究が行えるようになっています。クリーンルームや低温実験室など10室の研究室や、海水の成分を分析する解析装置や音響探査装置など海洋観測を行うための設備が整っています。

また、ジョイスティックコントローラにより船の操作をやすくしたり、正確な重力をはかる重力計、正確な方位を測るジャイロコンパスなど海洋観測にはかせない設備も搭載されています。



主な経緯

- 1989年 最初の研究航海実施(伊豆小笠原海域・四国海盆・鹿島沖)
- 1989年 世界一周航海(初の外航)
- 1999年 「かいよう」とともに南海トラフにおいて大規模かつ高密度な深部構造探査を実施
- 2004年 東京大学海洋研究所から独立行政法人海洋研究開発機構へ移管
- 2005年 海上気象通報優良船舶表彰を受賞

主要諸元

全長	100.0m	航海距離	12,000マイル
幅	16.0m	定員	89名(研究員等35名を含む)
深さ	8.9m	主推進機関	4サイクルディーゼル機関(1,900ps×4台)、 電気推進モーター(460kw×2台)
喫水	6.0m	主推進方式	4翼可変ピッチプロペラ(ハイスキュー型 2輪×2舵)
国際総トン数	3,991t		
最大速度	約16ノット		



独立行政法人

海洋研究開発機構

<http://www.jamstec.go.jp/>